

# 楽しく実践！おもしろ消費

小学生から大人24人の約3か月の環境プロジェクト学習（令和6年11月10日～令和7年2月28日） ゆるサポ愛媛 處淳子

環境や人、地域をおもしろ消費行動の「おもしろ消費」を愛媛大学で学び、実践し、一歩踏み出すアイテムをつくろう！

## 1

### 背景と目的

- 西条のごみ問題（1日1人当たりの排出量が県内でもワーストクラス）
- ひとりから取り組める環境配慮行動が必要⇒「おもしろ消費」

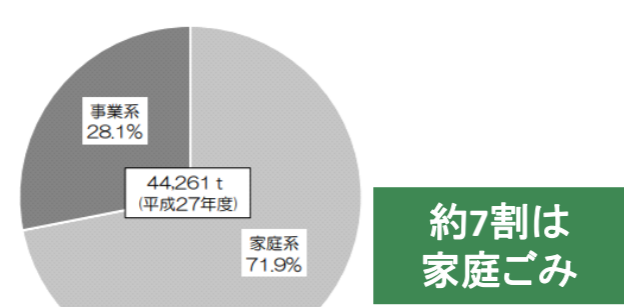
### 目的

中高生が、自分の身近な片付けやおもしろ消費を学び、実践し、一歩行動するアイテムを作成し、学校や西条市内で推進することを目的とする

#### ■市内ごみの内訳と割合

（西条市一般廃棄物処理基本計画（案）2024年3月策定）2取より

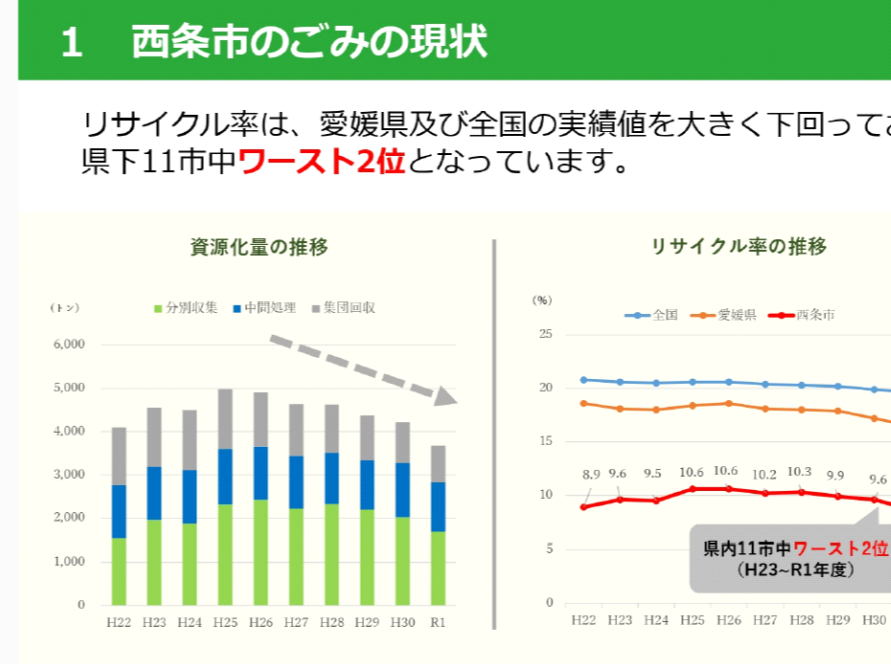
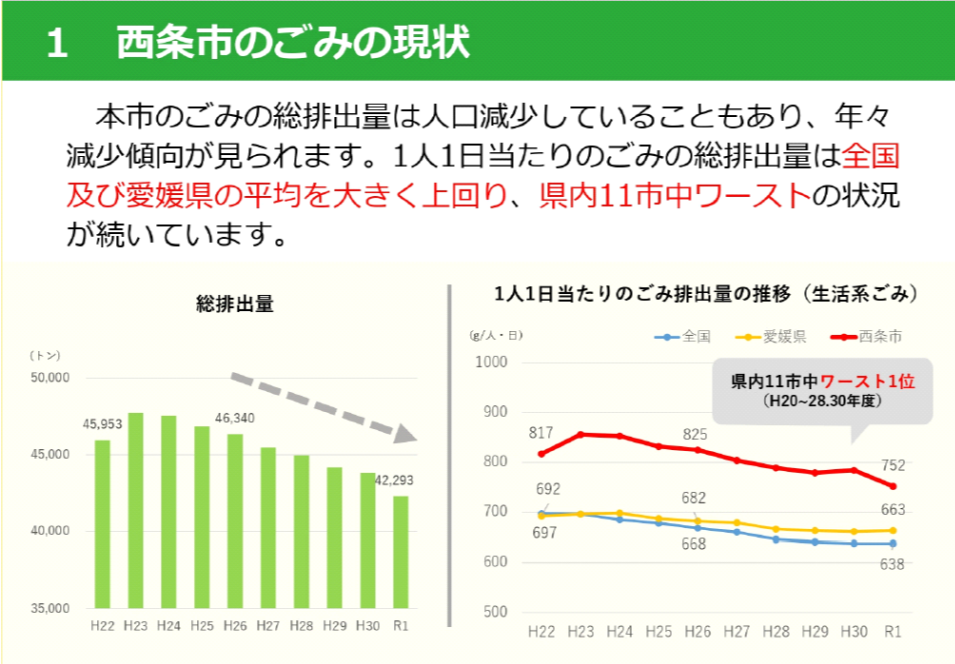
③主体別の排出状況  
本市のごみ処理施設で受け入れられているごみには、資源系ごみと燃焼系ごみがあります。このうち、家庭系ごみは全体の約71.9%を占めています。



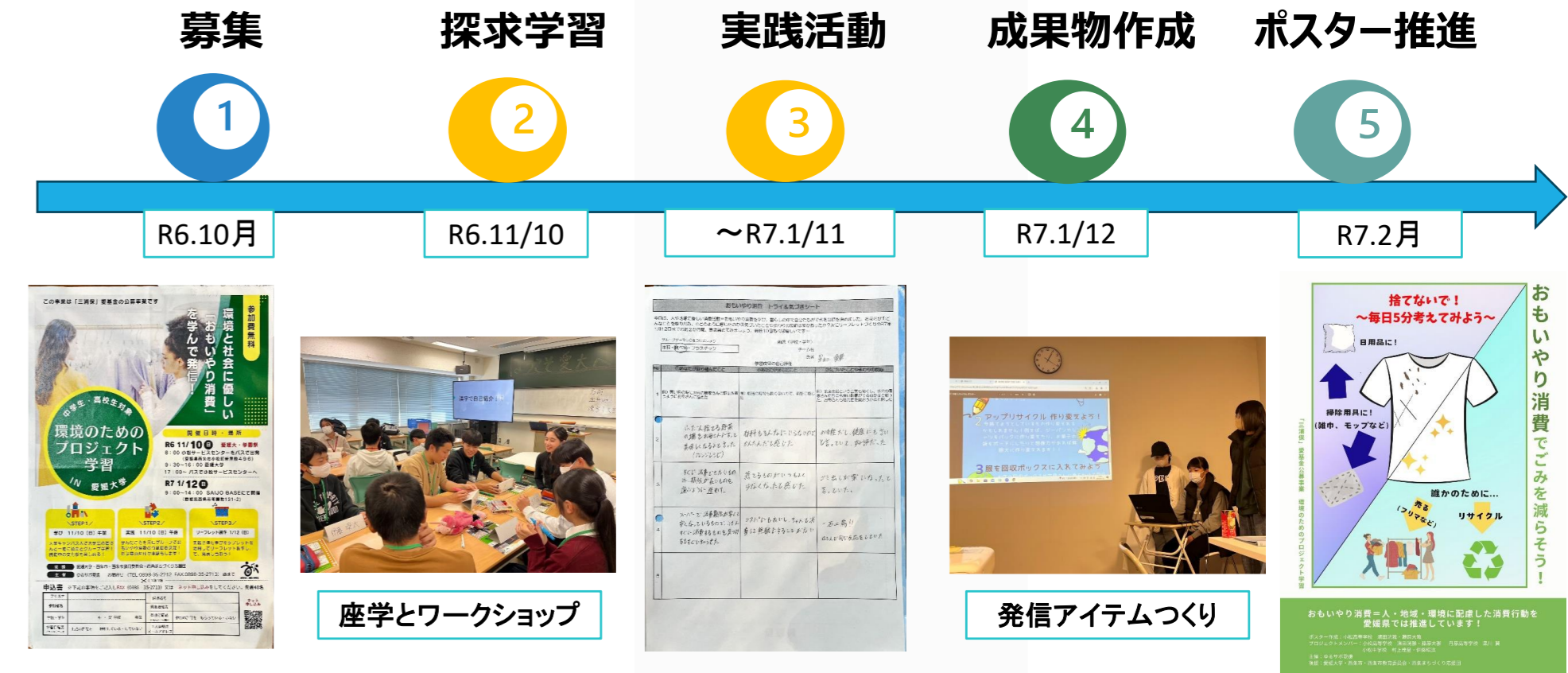
約7割は家庭ごみ

図2-5 ごみ排出量の主体（資源・燃焼）別別訳（平成27年度実績）

### 西条市のごみの現状・ゴミ処理収支では歳出が歳入の約15倍の経費負担



### 実施計画



## 2

### 探求学習 in 愛媛大学

参加者24名

人や環境、地域を思いやる消費行動「おもしろ消費」の理解を深める

- SDGs 12「つくる責任と使う責任」、おもしろ消費の基本学習
- 服、チョコレート、鉛筆のサプライチェーン（モノの一生）を視覚化
- 生産から処分まである課題を考える。
- ごみ減量につながる行動目標のポスターを作成
- 整理整頓の基本を学びながら片付け体験



### 「モノ」の一生 と 行動目標ポスター

洋服

食べ物

文房具

### 大学内での学びでの感想

- ワークショップや発表後の気づき
  - カカオ豆の川が再利用でき、食べ物になったり、器になるなど、たくさんの物に作り変わることがわかった。
  - シャーペンはそのまま捨てていたけど、分解すれば再び違うものになり、文具がなくて困っている人にも上げられると思った。
  - 「モノ」のサプライチェーンそれぞれ問題点があり改善する余地が多いと感じた。
- 参加者の感想
  - 環境を良くするためには何が必要かわかりよい体験になった。
  - 大学の雰囲気がかかって楽しかった。
  - 色々な高校生や大学生と関わりあえ良い体験になった。
  - 部屋の掃除方法を知ってきれいにしてよと思った。

## 3

### 実践活動

#### エミフル松前のロフトに文具のリサイクルボックスを発見

- 文房具を捨てず、ネットで販売したら、買ってくれた。
- 壊れた文房具をリサイクルボックスに入れてみた
- 海洋プラスチックごみをリサイクルしたシャーペンを購入した
- 文房具を分解、分別して捨ててみたが、環境への配慮、資源の節約、経済効果につながる
- リサイクル黒鉛、再生プラスチック、再生紙などでも、シャーペンの芯はリサイクルされている



トライ&気づきシート作成

丹原高校でも探究活動が活発に

### トライ&気づきシートより参加者の声

あなたが取り組んでいること	あなたが感じたこと	気づいたことや周囲の反応
地域の食材を食べる。地産地消に取り組んだ	地域の農産物を知ることができた	地元農家さんたちに良い影響があると思った
家に食材が余っているのを親と共有するようにした	無駄な買い物やせっかくなかったことがなくなった	冷蔵庫にメモしておくことでもたつきがなくなりやすくなった
母に昔捨てた野菜の端も美味しくなるよ、とアレンジレシピを勧めた	材料もそんなにないのに簡単だと感じた	お手軽だし、健康にも良さそうで好評だった
部屋の片づけ	とてもきれいになりすっきりした	「部屋の整理をしてえらい」と言われた
服のリユース	親戚の子どものために服をあげたら、なんかうれしかった	たくさんありがとうといってくれ、次の日着ていてほっこりした
親に学んだことを話した	たくさんの人たちにこのことを知ってもらいたい	たくさん手助けがなかったらよかった

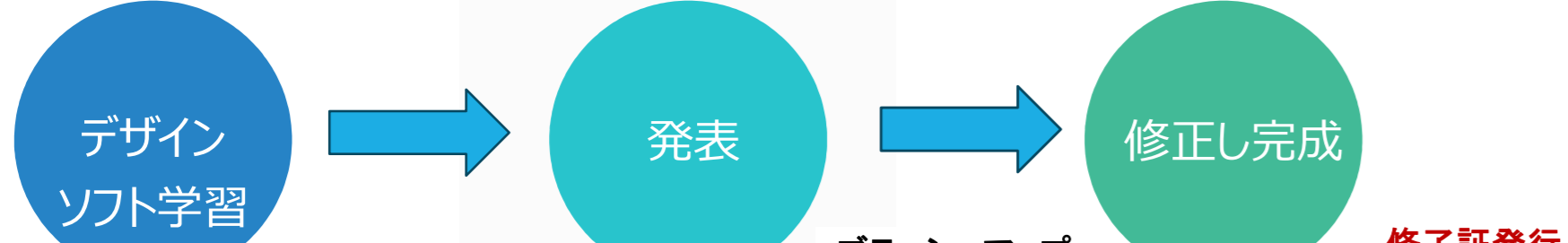
### 実践活動

トライ&気づきシート作成

小松高校ではアンケート実施（調査数146）

## 4

### 「おもしろ消費」に一歩踏み出すアイテムづくり



## 5

### 考察と展望

- おもしろ消費は、行動した本人にも達成感や幸福感をもたらす事が期待される
- 一人ひとりのおもしろ消費行動が、結果的にごみの減量につながると思う

今年度（～3月）	来年度以降
参加者へ、再確認できる活動冊子を渡し、家庭内や学校でも推進し続ける気持ちを促す	参加者に学校を通して、役立つ情報提供をし、推進を促す
市内の学校（40校）市役所や店舗等で、ポスター配布	おもしろ消費の認知度を高める発信
ミッションすくろくで地域交流のきっかけづくり（丹原地区）	おもしろ消費の推進が、3年後の家庭ごみ削減につながる活動へ



協力：愛媛大学教育学部 准教授竹下浩子ゼミ 西条市市民活動支援センター